

1

(2 完答/10 順不同・完答)

1 タコはどう

2 A ウ B エ

3 因果関係

4 I どの Ⅱ 釘を

5 改めて

6 ウ 7 エ 8 ウ

9 食べる

10 イ・ウ

11 a 生息(棲息)

b 多用

c 研究

2

(4 完答)

1 a 商戦

b 照れくさい

c 加工

d 量

2 (記述題)

3 ア

4 A エ B ウ C イ D ア

5 ア

6 料理

7 あれこれと言う

8 ウ

9 親指

10 料理ができない

11 イ

2

2  
夜には自宅で周平にご飯を作らなければいけないのに、料理をうまく準備できる自信がないから。

(同意可)

配点

11 21 各2点×7=14点

22 6点

その他 各4点×20=80点

100点

1

- 前半で「道具を使うこと」、および「道具を使う動物」についての具体例を示し、後半の「タコの道具使用」につなげていた。★の後の段落の内容にも注目すれば、より前半・後半に切り分けやすくなるだろう。
- 2 前後のつながりに注目しよう。(A)は「以前はヒトだけが道具を使用すると考えられていた」↓「後に同じ霊長類のチンパンジーも道具を使用することが報告された」という流れなので逆接の働きを持つ「しかし」がはいる。(B)はメジロダコが「二枚貝の殻」や「ココナツツの殻」を「身を守るために用いていた」という事実に加えて、それらを「持ち歩いていた」という事実を述べていたので付加の働きを持つ「さらに」がはいる。なお、「なぜなら」は理由説明、「つまり」は言いかえ・まとめの働きを持つ。
- 3 ①を含む一文が手がかりとなる。直前の「つまりは」に注目して、①にあてはまるのは「道具をどのように操作すれば目的を達成できるのか、道具の形状と動きにより起こる結果との関係性」という表現を言いかえたものであることをふまえて答えをさがそう。

- 4 問3とつながりがある問題である。——線②「知っている」とは要するに、人間は道具使用の際の「因果関係」を知っているということである。あとはそれを具体的に説明しているところをさがし、◎の一文を整えよう。なお、◎の文中の「…のか」という疑問・問いかけの表現に対応することはをさがすという意識もあわせて持つておきたい。

- 5 「ここよりあと」という指定に注意しよう。通読時に具体例が出てきた場合は、漫然と読み進めるのではなく「何についての具体例なのか」ということをつかんでおきたい。また、設問の要求にも注意しよう。「ダイヤル式の固定電話」は二行前の「未知なる道具」の例だが、筆者はこの具体例を通して「道具と動作の因果関係の理解は難しい」ことを説明していたのである。

- 6 「不適当なもの」を選ぶことに注意。メジロダコが「二枚貝の殻」や「ココナツツの殻」を持ち歩くのは——線④を含む段落に書かれていた通り「お気に入り」だからであったが、前段落にあるようにそもそも「身を守る」という目的があった。

- 7 Xに「先端」を入れてしまうと直後の「八本の腕の先端を足のように使って歩いていく」と矛盾してしまう。Yは「殻」の中に「自身の体を入れていた」や、直後の「一個だけでも体が隠れる」というところから考えよう。

- 8 ⑤の「ココナツツの殻」の使用方法から、「守る」という共通点を持つものが答えとなる。⑤にたとえていることがわかる。メジロダコの「ココナツツの殻」の使用目的が含まれなくなるので誤りである。

- 9 「一語」という指定に注意しなければ、「捕まえて食べる」と答えてしまう。そもそも「捕まえて食べる」だと、「ヒゲオマキザル」の道具使用目的が含まれなくなるので誤りである。

- 10 Aは「実験室でバナナを取るための道具使用」は「進化の隣人」と言われる理由ではないため誤り。先に「進化の隣人」と評されているからこそ「〜と言われるだけはある」という表現になるのである。Eは最終段落の内容と明らかに矛盾しているので誤り。

- 11 a「生息」はその場所に住むということ。b「多用」は「多様」「他用」などの同音異義語に注意すること。「多様」とはいろいろのちがったさまを表すことばであり、「他用」は別の用事という意味である。書き取りの際は文脈に沿った意味を持つ漢字・熟語を選べたい。c「研究」は説明文・論説文では頻出の熟語なので確実に身につけてほしい。

2

- 1 a「商戦」とは商売上の競争のこと。b「照」は「れんが」の書き忘れに注意したい。c「加工」とはこの場合、原料に手を加えて新しい製品を作ること。d「量」は横棒の数に注意しよう。漢字の勉強ではそれぞれの意味に加え、使い方も知っていこう。

- 2 設問の指定は厳守しなければならない。「周平」「料理」という指定語句を使っていなければその時点で不可である。そのうえで「夜には」周平に料理を作らなければいけない」とことと、「料理に対する不安、自信のなさ」の二点にふれていけば良いだろう。

- 3 直後の「手にしたリーフレットと沙代を見比べている」に注目しよう。事前にリーフレットに目を通した際、モデルとして写っている人が目の前に現れたので、リーフレットの写真と沙代本人とを見比べているのである。

- 4 (A)には一見どの選択肢もはいりそうだが、こういふときは後回しにすれば良い。(B)は周平のふだんの生活サイクルを説明している。「いつも」がはいる。(C)は直後の「並べられた」に対応した「ずらりと」がはいる。「ひとときわ」とは特に、という意味であり、(D)には不適当であろう。リーフレットの中で特に強調したいことばが『最強・愛されファッション』なのだと考えると、(A)に「ひとときわ」が、そして(D)には直後の「ない」と呼応することからも「なかなか」がはいる。

- 5 ③を含む一文を読み、沙代がここで何を「嘘だ」と言いたいのかを考える。直後の一文から、「愛されるために必要なもの」について考えていることがわかる。

- 6 文章全体を通して、沙代が何について悩んでいるのかを読み取れていれば容易であろう。⑤を含む一文では、周平が沙代の料理について話していることがわかる。これと同じようなことが書かれているところをさがしていく。

- 8 あやふやなイメージのまま答えを選ばないように注意したい。「こっち＝味濃いめ」であり、沙代のカレーは水っぽい、つまり味が薄いということを念頭に置いて指示内容を考えたい。

- 9 「ネイル」とは爪のことだが、ことばの意味を知らなくとも直前の「左手の」ということばや、本文の後ろから三行めに「また、無意識に爪を噛んでいた」とあったことが手がかりとなる。「爪を噛む」のは沙代が何らかのストレスを感じている時のくせなのである。「二カ月前ほど前」とはおそらく結婚生活が本格的にスタートした頃ではないかと読み取れる。

- 10 問6とも関わりがある問題である。「——中略——よりあとの部分から」という指定に注意しよう。「おいしいものさえ食べさせておけば大丈夫」と言われたものの、沙代には肝心の「おいしいもの」が作れないのである。

- 11 ⑨の直前で、周平は「デパ地下の惣菜(＝鶏の唐揚げ)が家庭料理に敵うはずないって」と言っていた。しかし沙代は、周平がその「デパ地下の惣菜」の方を沙代の作ったカレーよりも優先して食べていることに傷ついているのである。「お義母さんの料理」でデパ地下の惣菜、沙代の料理」という図式である。